



とぎのこえ Good News for Japan

平成二十九年三月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行



貧しい生活の中にも、希望を見いだすための動きをおこなっている (バングラデシュ)

喜んで 与える人に

シエリル・メイナー

昨年の暮れのことです。私は、歳末助け合いの社会鍋募金のために、東京・新宿の駅頭に立っていました。そこは、音楽の演奏も、マイクの使用も、アメリカでよく使うベルも使用禁止でした。自分のできる精一杯のことを、と思いつながら、募金への協力を求めて、大きな声で繰り返して

呼び掛けていました。そんな時のことです。少し離れた場所に、人だかりができました。様子を見てみると、とつてもかわい子犬たちがいる募金でした。人々は喜んでその募金に応じています。私も子犬は大好きです。その子犬を世話するための募金に反対する思いはありませんでしたが、その募金と競つていようような気分になってしまいました。

春

になると、救世軍で目的の募金への協力をお願いしています。それは、「ひとつの救世軍、ひとつのミッション(使命、ひとつのメッセージ)を掲げる救世軍がおこなっている、全世界的な募金活動です。福音を携えて、お互いを、国境を越えたキリストにある兄弟姉妹として支え合うためになされています。皆様から寄せられた寄付金は、海外の貧困地域の子どもたちや障がいのある子どもたちに教育を提供するために、地域支援のための学びや訓練を提供するために、農村部への援助や支援の働きに必要な車両を購入するために、など多くのプロジェクトで用いられています。

募金に協力することで、他の人々の人生に関わり、その貧困を緩和し、不平等の壁を崩す手助けに参加できることは、私たちにとても大変貴重な経験ではないでしょうか。救世軍は、イエス様がなさったように、飢えている人々に食事を提供し、裸の人に衣服を着せ、病気の人が、傷ついている人のために奉仕することによって、イエス様の福音を広めているのです。

こ

の世界中の多くの人々が直面している苦しみや嘆きに心を留めていただきたいと思います。世界には、多くの傷ついた、貧しい人が存在しています。その陰には、人々の無関心や富の搾取があるものです。だからこそ、恵み深い神様によって、他の人に心を用いることができるようにされる必要があるのではないのでしょうか。

めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。神は、あなたがたがいつもすべての点ですべてのものに十分で、あらゆる善い業に満ちあふれるように、あらゆる恵みをおなたがたに満ちあふれさせることができになります。」(コリントの信徒への手紙一9章7、8節)

神

様は、すばらしい約束をくださったので、喜んで与える人たちの必要を満たし、善い働きができるように、と。神様は、すべてのものを与えてくださる方、助け手です。神様は、私たちが他の人々を支えられるよう、私たちをもっと豊かにしてくださいませ。神様は、ご自身のご栄光に従って、イエス様の御名によって他の人々を祝福するための深い思いやりを、私たちの内に起こさせてくださいます。どうか、神様に信頼し、喜んで与えることができますように。(救世軍士官(伝道者))

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈信仰の体験談〉

海外での働きから学んだこと

～なぜ「幸せなら手をたたこう」は生まれたのか?～

木村 利人



ルカオ小学校の子どもたちと

JASRAC 出1701397-701

うよ
こそう
ためそ
たたし
たをた
を度な
手態ら
ならみ
なせな
せせら
幸幸ほ

フィリピン・ダグパン市での奉仕活動

「幸せなら手をたたこう」という歌は、今から五十八年前、海外ボランティア体験の中から生まれました。作詞者としてのペンネームは「きむらりひと」です。

私が小学生の時に第二次世界大戦が始まりました。開戦の臨時ニュースを、欧米に学んだクリスチャンの伯父と一緒に聞いていたのですが、伯

父は即座に、「リヒト、日本はこの戦争に必ず負けるよ」と

と言いました。その時は「伯父はなんと非国民なのか」と思いましたが、その通りに敗戦となり、私は必勝を信じていた自分の愚かさに気づきました。この伯父や中学の先輩の影響でキリスト教会に導かれ、「不変の真理」である神に出会い、十六歳の時に東京にある富士見町教会で洗礼を受けました。その後、早稲田大学に進み、

早稲田奉仕園キリスト教学生会の主催による、東北の農業、群馬の児童福祉施設建設工事、石垣島の小学校の校庭整地等に、毎夏参加するようになり、そして、一九五九年、大学院生の時にフィリピンのYMCA(キリスト教青年会)主催による、ルソン島マニラ北部にあるダグパン市の小さなルカオ村小学校で開催されたワークキャンプ(ボランティアの労働奉仕活動)に参加しました。このワーク

日本人への憎しみ

ところが、そのダグパン地域に行った当初、私は本当に

大きなショックを覚えました。実は、そのリンガエン湾の海岸は、一九四一年十二月二十二日に日本軍が上陸した場所、日本の侵略軍による戦いで、強く抵抗するフィリピン軍と民間人への残虐行為もおこなわれた地域だったからです。当時の上陸用舟艇などの残骸も半分砂に埋まったりして、まだ残っていました。その悲惨な戦争が終わって十四年後、初めて訪れた日本人が私たちだったのです。当初ワークキャンプでは、村人たちの恨みや憎しみの眼差しに晒され、非常に厳しい雰囲気の中で作業をしました。

ダグパン市の庁舎の外壁にも大きな弾丸の痕が残っていました。市長に招かれてお会いした時に、大学院で何を勉強しているのかを聞かれ、「法学です」と答えると、

「エッ? 法学? 日本軍は法や正義を全く無視した残酷で卑劣な戦闘で、軍人ではない民間人、婦女子を多数殺傷し、占領軍として過酷な軍政による支配をした」と言われました。本当に大きなショックを受けました。

このワークキャンプでは、ルカオ小学校を宿舎にして、約一カ月間、炎天下で汗水を流して、参加した日本人もフィリピン人も一緒に作業をし

ました。やはり、共に汗を流して共同の仕事をすれば、だんだん打ち解けてくるものです。朝夕の礼拝で聖書を読み、祈り、話し合いをしている中で親しくなった、フィリピン人の友人ラルフ君から、次のように言われました。

「実は、本当のことを言うと、日本から誰かが来たら殺してやろうか、と思っていたくらいだった。僕たちは戦争で家族を失い、日本軍にひどい目に遭わされた。日本人はそのことを知っているの?」
私は戦時中、小学校の四年生の時に、山梨県猿橋近くの岩殿山裏のお寺に、東京から集団疎開をしました。当時、私たちは、日本は、アメリカ、イギリス、中国、オランダ諸国に包囲されて、経済的にも資源が枯渇し、生き残るために止むを得ず立ち上がり、そして、アジアの植民地解放のために「聖戦」をしている、と洗脳されていました。まさかフィリピンの人々と激しい殺し合いの戦争をしているとは、思いもよみませんでした。日本軍が虐殺や拷問、暴行など、どれだけのひどいことをしたかということも、全く知りませんでした。フィリピンはアメリカの植民地でしたので、アメリカ軍と共に日本軍を相手に戦ったのでした。

日本人への愛と赦し

ワークキャンプの期間中、十四年前の一九四五年に終わった悲惨な戦争の跡地、虐殺や処刑がおこなわれた教会などを直接訪れる機会が与えられ、日本人の一人として「知らなかつたでは済まされない」と、心から深く反省しました。

そんな私たち日本人に、カトリックの宗教的伝統に育まれたフィリピンの友人たちは、「戦争が終わっているのに、日本人を殺そうと思つたりしたのは間違いだった。私たちは今、平和で幸せな時代を生きている。若い世代の僕たちは、愛し合い、赦し合つて生きよう。再び武器を持つて戦うことはやめよう」と「愛と赦し」のメッセージを語りかけてくれたのです。私も、日本の青年の一人として、過去の日本の侵略と残虐行為への深い悔い改めと赦しを祈りました。そして、日本の平和憲法にあるように「平和のうちには生きる権利を宣言した日本は再び戦わない」と、互いに手を取り、涙のうちに不戦・平和・幸せを誓い合いました。

フィリピンの友人たちは、「私たちは、キリストにあつてトモダチだ！」と言つてくれました。感激し

ました。そのタガログ語の表現の「タヨ アイ マカイビガン カイ クリスト」の言葉の響きが、今も爽やかに耳元で鳴り響いています。

この平和を誓い合つた日以降、フィリピンの友人たち、村人たちは「態度に示して」親切にしてくれました。村民の個人のお宅や結婚式、誕生パーティーに招かれ、歓迎され、地元のロータリークラブで、日本の青年代表としてスピーチをしたり、地元放送局のメグ・ロレンゾという有名なキャスターのインタビュー番組で話をしたり等、いろいろな場所に招かれ、本当に温かいおもてなしを受けました。

作詞のヒントは聖書から

フィリピンの友人たちと平和を誓い合つた時の礼拝で読んでいた、英文聖書の詩編四七編一節「Clap your hands for joy, all peoples! (喜んで手をたたこう、みんなで!)」がヒントになって、後に日本語で「幸せなら手をたたこう」を作詞しました。当時、ルカオ小学校の運動場で子どもたち皆が輪になり、椅子に座つて歌つていたゲームの歌—いりんなジエスチャーをして、明るく楽しくみんなで遊びましょうと歌う—のメロディー (これは後に、スペイン発祥でフ

イリピンに土着化した民謡曲と判明)を聞いて、そのメロディーにのせて歌詞を書き下ろしたのでです。

そして「早稲田奉仕園」の学生サークルやそのワークキャンプで歌っているうち、新宿にあつた「歌声喫茶」などでも歌われるようになり、日本中にアツという間に広がりました。テレビでは歌手の坂本九ちゃんが、楽しいムードでこの歌を歌ってくれました。作詞から五年後の一九六四年に開催された東京オリンピックでは、この歌がソ連(当時)体操チームの入場曲に使われました。また、カナダのホッケーチームのメンバーや世界諸国からの訪問者の皆さん方にも覚えられ、いわば日本発のヒットソングとして、世界中に広まつたのです。

共に助け合う平和の内に生きる喜びを!

現在も国際的に、ボランティアによる連帯奉仕活動の一環として、男女のあらゆる世代の人々が、開発途上国での様々な奉仕活動や難民救援活動に携わっています。それらは、世界諸国の NGO 組織、奉仕団体、宗教組織や政府の関連機関などによっておこなわれています。日本でも、青年から高齢者に至るまで、海

外での国際開発協力などの働きについている方々が大勢います。たとえ短期間であつても、私自身が経験したように、言語・生活習慣・文化などの異なる国々で開発や援助の仕事やボランティアをし、共に助け合う体験をすることに、大きな意義があります。

私自身の人生の新たな出発点も、このフィリピンでの出会いの体験の中から生まれました。そして、「いのちを大事にしよう。平和を作り出すものになろう」という思いから、私が学問として提唱してきた「いのちの尊厳」に基づいた「バイオエシックス(生命倫理)」が生まれたのです。世界の諸国の仲間たちと、共に仕事をし、折にふれてこの「幸せなら手をたたこう」を歌うたびに、あの悲惨な、二度と起こしてはいけない戦争のこと、アジアの友人たちと不戦を誓い、幸せと平和を態度に示して生きようと誓い合つたこと、そして地域の公衆衛生活動と農村開発のために汗みどろになつてフィリピンの同じ世代の青年たちと働いたことを、今もまざまざと思い出します。

世界に向けて、かつての戦争への根源的な反省をふまえて制定した私たちの憲法前文にあるように、「平和的生存」への願いと世界の諸国民が共に平和の内に生きることのできる幸せを目指し、国際的な医療・健康・開発・援助・文化交流などの相互協力を、今後も続けていこうではありませんか。

そのために、特別な使命を帯びて、自分の生まれ育つた国を離れ、世界の各地で神様の宣教の奉仕の業をはじめとして、医療・教育・福祉など様々な分野でお仕事をしておられる方々の上に、またそれ

をサポートしておられるすべの方々の上に、神様の御祝福が豊かにありますようにと心からお祈り申し上げます。(日本基督教団 霊南坂教会員)



54年ぶりにルカオ小学校を訪問 (2013年1月9日)

木村利人さんプロフィール
早稲田大学名誉教授。ジョージタウン大学ケネディ倫理研究所特任研究員。国際長寿センター(ILC)企画運営委員。日本赤十字社血液事業審議会会長。「バイオエシックス(生命倫理)」の国際的パイオニア。

タイ、ベトナム、スイス、アメリカの大学・研究所の教授として約四十年にわたり研究と教育を推進。一九八七年早稲田大学人間科学部創設にあたり、教授として日本で最初のバイオエシックス講座を担当。厚生省・厚生科学審議会委員、厚生省・医師国家試験委員、司法制度改革推進本部・法曹制度検討会委員、日弁連綱紀委員、恵泉女学園大学学長(二〇〇六―二〇一三)、日本生命倫理学会第九期代表理事・会長などを歴任。

著書: 『いのちを考える—バイオエシックスのすすめ』(日本評論社)、『いのちを語る』共著(集英社)、『戦争・平和・いのちを考える—しあわせなら態度に示そうよ!』(キリスト新聞社)など多数。

クリトリ
ご氏名
ご住所
□ 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

裏
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大將 アンドレ・コックス (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp

救世軍克己週間募金に

(3月～4月)

皆様のご協力をお願いいたします



救世軍では、毎年、克己週間という募金の期間を設けています。これは、今から130年近く前、ヨーロッパに救世軍の働きを広げるための資金が必要になり、創立者のウィリアム・ブースが「それぞれ1週間だけ何かを節約(克己)して、その分のお金を献げよう」と呼びかけたことに端を発しています。以来、毎年、世界の救世軍で支援を要する人々のために募金がおこなわれるようになりました。

現在、世界中の救世軍で集められた寄付金は、イギリスの国際本部に送られ、救世軍の国際的ネットワークを通じ、開発途上国や災害被災地、難民の支援などのために役立てられています。

寄付金は以下の方法で ご協力をいただいています

- 戸別訪問
制服を着用した伝道者や信徒が伺い、趣旨を説明して寄付金をいただきます
- 郵便による送金
郵便振替
口座 00180-5-4400
加入者名 救世軍本営
現金書留
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-17
救世軍本営
※どちらも、「克己週間募金」とお書きください
- インターネットによる送金
救世軍ホームページ
http://www.salvationarmy.or.jp
※海外支援(克己週間募金)を選択してください
- ▷お問い合わせは、
救世軍本営 伝道事業部まで
Tel. 03-3237-0881



ハリケーン・マシュー襲来の中で誕生した赤ちゃんをお世話する(ハイチ)

救世軍とは

The Salvation Army

国際的な組織のキリスト教会(プロテスタント)で、世界百二十八の国と地域で働きを進めています。

一八六五年、イギリスの牧師ウィリアム・ブースが、東ロンドンの貧しい人々、虐げられていた人々に神の愛を届けようと伝道を始めました。やがて、人々の一番必要としているものを提供しないで神の愛を伝えることはできない、と物心両面からの救いを目指すと決心し、医療や社会福祉の働きが起これてきました。そして、その時々の人々のニーズに迅速に 대응するため、軍隊流の組織を取り入れ、アルコール依存症者の回復支援をおこなっている団体として、信徒もアルコール抜きのライフスタイルを採りました。

日本での働きは、一八九五

(明治28)年に始まりました。廃娯運動や失業者対策を推し進め、結核療養所や婦人保護施設、児童養護施設の設立などに力を尽くしました。また、キリスト教、聖書の神をわかりやすく伝え、多くの人が真の神を信じるようになりました。

現在は、伝道の拠点である四十三の小隊教会にあたる、十二の分隊(伝道所にあたる)、十九の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めています。

年間を通して、街頭生活者支援や災害被災者支援、様々な社会奉仕活動をおこなっていますが、これらは、社会鍋募金などを通して献げられた寄付金を資金としています。

国際組織の救世軍は、世界の各地において、様々な災害被災者への支援と共に、内戦などからの復興支援、開発途上国での職業訓練、教育の充

実などによる自立支援、HI V/エイズ対策プログラム、トラフィック(人身取引)対策などにも力を尽くしています。それらの働きは、世界の救世軍で募金を呼びかけ、特に「克己週間」募金などで集められた寄付金によっておこなわれています。

また、救世軍として、それぞれ国ごとにパートナー国が定められ、様々な面で折り合い、支援し合っています。日本の救世軍は、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビア、チリと、ヨーロッパのスペイン、ポルトガル、アフリカのルワンダ、ブルンジ、そしてバングラデシュとオーストラリア(南部)とパートナー国になっています。



火災の地域へ食事を運ぶ

必要とされる働きは、国や地域の状況に応じて異なりますが、救世軍のすべての働きは、キリストの愛に基づき、人種や思想を超えて人々に仕えるためのものなのです。

必要とされる働きは、国や地域の状況に応じて異なりますが、救世軍のすべての働きは、キリストの愛に基づき、人種や思想を超えて人々に仕えるためのものなのです。

☆海外の支援活動

○エクアドル

昨年四月、マグニチュード7.8の地震が発生しました。その被害は大きく、救世軍は緊急支援として、まず飲料水や食糧を提供しました。

その後も洪水が発生し、長期的な支援を展開しています。

○ペルー

昨年十一月、首都リマのラム街で、火災が発生し、五百世帯が家を失う被害となりました。そのため、約二千人が街頭生活を余儀なくされ、救世軍では早速、朝食や、けがの手当てのための医薬品セットを提供しました。

救世軍社会鍋俳句コンテスト

- ◆募集内容：社会鍋を題材にした未発表作品、一人2句まで
- ◆応募方法：郵送(ハガキ不可)、ファクスでの送付、救世軍ホームページ応募フォームから
- ◆締め切り：2017年3月31日(消印有効)
- ◆賞：優秀賞1句、特別賞2句、ほのぼの賞3句
- ◆結果発表：『ときのこえ』2017年5月15日号、6月1日号紙上、公式ホームページ
- ◆選者：三浦喜代子氏〔日本クリスチャンペンクラブ代表〕他
- ◆送り先、問い合わせ先：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 Tel.03-3237-0881 救世軍本営「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係 fax03-3237-3588

受賞式は、6月11日の創立記念コンサート席上を予定。ふるってご応募ください



(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。救世軍にこの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日 毎月一日・十五日

定価 毎月 四〇〇円(〒六〇円) 五〇〇円(〒六〇円) 六〇〇円(〒七〇円) 七〇〇円(〒七〇円) 八〇〇円(〒七〇円) 九〇〇円(〒七〇円)

発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営

電話 東京(03)337-0881

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17

編集人 齋藤 恵子

印刷人 代表者 ケネス・メイナ

(この欄に通信文を書くとき第三種扱いになりません)